

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100018		
法人名	有限会社 釘本		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	佐賀市神野西4丁目12番12号		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和4年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの一番の楽しみは、やはり食事なので、2~3か月に1度、利用者さんに食べたいものを聞いて、テイクアウトし提供している。

近くに公園があるため、頻回に散歩へ行き、外景を楽しむことができる。最近はコロナ禍でできていないが、近くのスーパーへ出かけ、買い物ができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年12月17日		

佐賀市内の閑静な住宅街に佇むホームは、春には桜見物ができる公園やスーパーが隣接しており、生活環境に恵まれている。コロナ禍でも、ホーム内で入居者が楽しく過ごせるように創意工夫し、穏やかで楽しい時間が流れている。また感染状況を見ながら、コスモス見学を実施するなど、外出は柔軟に対応している。協力病院は24時間対応しており、医療面でも安心できるホームである。経験豊富な職員が多く、入居者の笑顔があふれるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム名「あおぞら」を頭文字とし家庭的な環境でその人らしさを大切に地域の方々と関わることを理念に共通理解している	理念はパンフレットに記載し、室内にも掲示している。職員は理念を理解しており、毎月カンファレンスで再確認し、周知を行い、日頃の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム東側の公園は、散歩コースやスポーツ活動も盛んで、気候の良いときは、散歩へお連れし、挨拶をかわし交流を図っている。	地域自治会に加入している。除草作業に参加したり、近隣の公園でのグランドゴルフ参加者にお茶を差し入れする等で交流図っている。隣人からは季節の花や橙の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、民生委員さんの参加により、問題事例を伝えて感想や意見を伺い、認知症の理解を深め、地域貢献に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、事故報告、困難事例検討、自己評価、外部評価の報告をしている。多面での意見を聞き、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議ではホームの状況について報告がなされており、議事録も整備されている。コロナ禍のため書面での会議を2回開催している。	書面開催時は、報告だけでなく、意見欄を設けFAX等で意見を返信してもらい、相互意見を図るような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の空き状況や待ち状況を毎月報告している。 地域の研修会にも積極的に参加し、協力関係を築けるよう努力している。(最近はコロナ禍で研修に参加できていない)	市担当者や介護保険者とは報告や相談等しており、日頃より協力関係は取れている。研修(リモート研修含む)にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部、外部の研修に参加し、皆で周知している。玄関の施錠に関しては、大きな道路に面しており、危険が大きいため、ほぼ施錠している。今後、他の対応検討中である。	身体拘束適正化委員会を開催している。ホームでの研修の他、外部研修にも参加し、身体拘束に頼らないケアへの理解と実践に努めている。立地条件から危険があり、日中も玄関施錠している。夏場は網戸にしたり、入居者が外に出たいときには、職員が付き添い外出している。	日中、安全に配慮しながら玄関を開錠するための検討を継続し、条件付きで開錠する時間を延長するための努力に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部、外部の研修に参加し、皆で周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は、研修会に参加したり、自学にて学んでいる。 必要時には、迅速に対応できている。 今後は、職員全員で、周知できるよう勉強会開いていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの内容や料金について詳しく説明し、理解して頂くように努める。また、法改正時は、説明書を作成し、口頭で再度説明し、同意書や確認書を作成している。その都度意見をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族やご本人からの意見や要望は、相談窓口を設けて、カンファレンスで検討し、また運営推進会議で、受け付けた事項とホームの対応を報告し、意見やアドバイスを頂き、事例検討する。ここ数年は、特に相談は寄せられておらず、窓口以外にもアンケート等にて、意見を募り、運営に反映していこうと考えている。	毎月、ホーム便りを家族に郵送している。年1回行っていた家族会は、コロナ禍のため中止している。しかし、面会時や電話で、家族から意見を得るよう努めている。また、得られた意見は運営に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2カ月に1度の全体カンファレンス時に運営に関する意見や提案を聞く機会を設けている。	日頃から職員が意見を言いやすく、管理者とも話しやすい雰囲気がある。出された意見や提案は、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップを歓迎し、シフトや講習料金を半額負担等考慮したり、研修に積極的に参加できるよう、勤務時間の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術向上の研修会等には可能な範囲で参加し、報告書を提出し、回覧し周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修(成章ネットワーク)に参加し、同業者との交流を図り、情報交換を行い、質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、同調し、気持ちを理解し、不安を取り除くお手伝いをする。新しい環境の中で早く環境に馴染めるように、利用者さん間の橋渡しをする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望等をお聞きし、共感し寄り添うことで関係づくりに努めている。アセスメントに活かし、ケアサービスの提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長年の経験を活かし、状況判断し、見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活空間のなか、食器拭きや食事の下ごしらえの手伝い、洗濯もの干し、たたみ等の簡単な家事手伝いをさせていただき、感謝の気持ちを伝えることで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	中立な立場で本人、ご家族の話を傾聴し、不安や心配事の解決に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は、コロナ禍で難しいが、面会しやすい環境をつくる。また、馴染みの同窓生の集まり(同窓会)に参加できるよう協力している。	近隣の公園への散歩や、近くのスーパー等への買い物に行っている。外出や面会が出来ない時でも、ホームに立ち寄った友人に近況を伝えたり、電話での問合せに対応する等し、制約はあるが関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を考え、気の合う方同士を隣同士にしたり、合わない方同士の席を離し、工夫している。 また、孤立しないよう、毎日のレクリエーションに全員で参加し、協力しゲームに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況のお手紙をいただいたり、連絡をいただき、良好な関係が築けている。ご家族からの相談があれば、快く受ける心構えである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人、ご家族より話を聞き、介護計画をたて個々に応じた生活リズムを尊重し、その人らしい生活をしていただけるように努めている。	家族からの情報だけでなく、入居者との会話や表情、態度等から思いや意向を把握するように努め、その実現に向けた支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みの時点で、本人やご家族から話を聞き、生活歴、病歴、興味のあること等、アセスし、把握する。また、これまでの担当ケアマネいれば、協力を仰ぎ、情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録記載、バイタル測定記録記載にて、確認できるようにしている。 また、月に1度のカンファレンスにて、利用者様の最近のご様子を周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを開き、最近のご様子や、問題点などを話し合い、介護計画に反映させている。現場スタッフの気づきを大切に計画の見直しに努めている。	介護計画、サービス担当者会議、モニタリングとも適切に実施され、記録も整備されている。カンファレンスで課題がある場合等は適宜介護計画を変更し、入居者の状況に応じた介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日細かく生活の様子を記録しているが、パターン化し、同じような内容になっている。介護計画の見直しに活かしていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、対応できない時には、可能な限り職員が対応し柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今は、コロナ禍で難しいが、近くの商店に買い物に出かけ馴染みの関係づくりに努めている。また、地域の住人との交流が図れるよう積極的に向かいの公園に散歩支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	佐賀記念病院と医療連携を結んでおり、定期往診にて、健康管理、服薬管理、緊急時対応入院受け入れ等医療協力機関である。ご家族希望にて、以前からのかかりつけ医を利用されているところもあり、希望に応じて受診されている。	本人・家族の意志でかかりつけ医を選択出来るよう、契約時に説明している。協力病院と歯科は定期的に往診があり、また、受診は家族協力だが、緊急時はホームで対応している。協力病院は24時間対応可能であり、医療との連携も適切になされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきやいつもと違う状態にあるときは、すぐに看護師に連絡報告し、判断を仰げる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	佐賀記念病院と医療連携を結んでおり、入院時には、地域連携室、主治医と円滑に情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族と話し合い、尊厳を重視した終末ケアに努めている。また、ご家族にはホームで対応できる範囲のことについて理解を頂いている。	契約時にホームで出来ることと出来ない事を丁寧に説明し、入居者の状態に応じて主治医から都度家族への説明が行われている。重度化や終末期の方針は本人・家族が決め、ホームは医療機関と連携し、本人や家族の希望に添いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に必要な事例等挙げて緊急時の対応を話し合っている。看護師による指導も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練にて、昼、夜の火災時の避難訓練できている。地震や水害等では、また、避難の仕方もかわってくるため、今一度職員全員で、マニュアルを見直し、シュミレーション行っていく。	防災マニュアルを作成しており、備蓄もなされている。年2回、火災避難訓練や通報訓練を実施し、避難経路や避難場所の確認している。運営推進会議時に訓練を実施することで、会議の参加者に入居者の見守りをしてもらっている。しかし、夜勤専門職員は参加していない。	あらゆる場面を想定する等、安全対策に熱心に取り組まれており、今後夜勤専門職員も参加できることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ついつい、他者の前で「トイレに行きましょ う」「なんか匂うね」等プライバシーを損ねる 言葉を使ってしまっている。今一度、職員研 修等で、意識を高め、プライバシーマナーを 意識した介護にあたる必要がある。	入浴や排泄時等は、尊厳やプライバシーの 確保に特に注意するように心がけている。接 遇に関する研修を受け、再確認している。個 人情報保護のため、書類は鍵付きのキャビ ネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	2～3か月に1度、利用者さんから食事のリク エストを伺い、可能な範囲で提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否の方は、無理に入れず、時間をお いて声掛けしたり、次の日に入って頂いてい る。傾眠のある方は、居室で休みたいかを 意思を確認し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	おしゃれに関しては以前は一緒に買い物に でかけ、洋服を一緒に選ぶ等行っていた が、今はコロナ禍で難しいため、スタッフが 本人の好みの服を購入している。散髪は、 訪問カットを利用し、本人の希望に沿った髪 型を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	もやしの根切りや、玉ねぎ、ジャガイモの皮 むき等、可能な範囲で調理を一緒に行っ ている。また、毎日、皿拭きしていただいでい る。	「食べる事は生きる事」との考えに基づき、食 への楽しみが維持向上するよう工夫してい る。調理時の香りや音等が響くキッチンに入 居者は関心を寄せ、会話も増えている。おや つ作りや誕生日のケーキの仕上げ等、入居 者の出来る範囲で一緒に作業を楽しんでい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士によるメニューで栄養管理できてい る。水分制限のある方には、チェック表を作 成し、管理している。お茶を好まれず、飲ま れない方には、お茶以外の飲物提供してい る。毎月測定の体重変化により、ご飯の量 調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後に口腔ケアを行っている。義歯の対応 は、必ず外して口腔ケアをし、夜間は、毎日 洗浄液につけて衛生管理に努めている。 歯の間に詰まりやすい方は糸ようじ使用。う がいが難しい方は、口腔ケア用ウエット ティッシュ使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排尿、排便の時間や回数を記録し、排泄のパターンを把握し、排泄の声掛け、誘導に努めている。排尿ないときは、早めのトイレ誘導行ったり、長めに便座に座っていただいている。常時オムツ対応の方も、1日1回はトイレ誘導行っている。	排泄チェック表を活用し、入居者の状態に合わせた声掛け等で、日中は出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。オムツから紙パンツに変更した事例もあり、排泄の自立に向けた取組を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士によるメニューで食物繊維を摂るよう考えている。また、毎日の牛乳提供。やはり便秘の原因は運動不足。積極的に散歩等で体を動かし、腸の活性化に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、午後からの入浴としているが、希望あれば、午前中に入れる体制づくりを行っている。毎日の入浴を原則としながら、希望に沿った入浴を行っている。バスクリンを入れ、温泉気分を味わっていただいている。	入居者の希望や体調に応じて柔軟に対応している。浴室は広く清潔で、冷暖房が完備されており、リラックスできる環境が整っている。重度化した場合も浴槽の中に入れるよう、リフトを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室での休息ができるよう、室温調整行い、環境整備行っている。また、慣れた枕や布団類、家具の使用を推進している。テレビ好きな方は、居室にテレビ置くことで、一人の時間がもて、ゆっくり休息できている様子。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の薬の変更等、必ず全職員が往診記録に目を通す。また、カンファレンス時に、看護師より入居者の服薬状況を伝え、状況に応じて、薬の説明、重要性を説明している。常に確認できるよう、薬情報のファイルを準備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が好きな方は、食事の準備を手伝い、簡単な家事が好きな方は、食器拭きや洗濯ものたたみをされ、歌が好きな方はカラオケ等を楽しめる。外が好きな方は、散歩へ出かける等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的に行きたいところの外出は家族対応。家族がいないかたは、実費ヘルパーを利用されている方もあり。散歩や、近くのスーパーへの買い物は、出来る限り希望に沿って出かけている。(最近ではコロナでスーパーはいけいない)	コロナ禍のため、現在は制約された外出となっている。感染状況が落ち着いた際は、従来どおりに、入居者の希望に添った外出支援を再開する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ、自分で少額のお金を管理されている方もある。自分で管理できない方についても、少額を職員で管理し、使いたいときに使える環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に、家族の都合の良い時間をお聞きし、本人希望時には電話の橋渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、家族の写真、ぬいぐるみ等を置き、温かみのある明るい空間づくりを心掛けている。	コロナ禍のため、定期的に消毒や換気を行い、温湿度の管理も行っている。生花や季節ごとの壁飾りや、写真等を掲示し、温もりを感じるよう工夫している。騒音も感じず、穏やかに過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、テーブルの配置を工夫し、一人の空間を作れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、好きなラジオ、テレビを置いて一人の時間を楽しむことのできる空間づくりに努めている。	持ち込みに制約はなく、入居時に本人と家族が話し合い、使い慣れた物を持参している。家具の配置は安全を考慮し、本人と相談した上で決めている。入居者の個性あふれる居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、入浴場所の表示や廊下に張り紙、居室の目印をつける等、自発的に移動できるようにしている。		